

令和 3 年度教育活動等に対する幼稚園評価に関する資料

令和 4 年 2 月 8 日

学校法人 梅華学園 篠ヶ瀬幼稚園 園長 國 分 幸

学校法人 梅華学園 篠ヶ瀬幼稚園 幼稚園関係者評価委員会
委員長 木 村 綾 子

- 1 幼稚園の教育目標
 - ①明るく、楽しい園生活を送るために、精一杯限りを尽くして保育する
 - ②集団生活を通じて、優しさと厳しさと思いやりに満ちた保育を心掛け、友だちとの結びつきや異年齢との交流等を進め豊かな心を育む
 - ③一人ひとりの子どもの良さを見つけ、発見し、その良さを認め、励まし、伸ばす保育をする
- 2 本年度の重点目標
 - ①子どもの意欲、気持ちを大切にする（長期的な視野からも子どもの育ちを捉える）
 - ②遊びに没頭し、遊び込める環境を整える
 - ③プロセスでの育ちを見極める
 - ④幼児教育の可視化に努める
 - ⑤保護者の子育て支援の充実
 - ⑥地域の資源を活用し、地域社会との交流を促進する
- 3 本年度または近年の新しい取り組み、課題
 - ①年長組とうもろこし狩り、どろんこ遊び（R3.6.29）
 - ②わくわくウイーク（R3.7.26～30）
 - ③秋祭り（R3.10.30）
 - ④年長組みかん狩り（R3.11.6）
 - ⑤年長組リサイクル教室（R 3.12.14）
 - ⑥年長組積み木教室（R 3.12.20）

		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
1、幼稚園の教育目標 ①	・園児たちは園生活を楽しんでいるか	A	・クラスにこだわることなく、職員全員で子ども達を見守るように心がけた。また園児たちが、安心し、情緒的にも安定した園生活を送れるよう努力をしている ＊保育者自身の安心感からも前年度の踏襲部分が多いと感じるが、子どもは毎年変わり成長にも変化があるため、目の前の子ども達の様子から保育を組み立てていくように心がけていきたい。また特に年長園児には、体験活動の機会を提供し、様々なことに挑戦する機会ができるように配慮していきたい	A	園に行くと自分の子供の学年以外の子も声をかけてくれたり手を振ってくれる子が多い。 子供たちも担任の先生以外の先生の名前や話をすることもあるので学年関係なく気にかけていることがわかる。
1、幼稚園の教育目標 ②	・保育者の保育、指導は優しさ、厳しさ、思いやりを併せ持ったものであったか ・園生活を通して、他児との結びつきが強まったと感じるか	A	・満3歳、年少園児には園生活に安心感を持てる様に配慮し、年中園児には優しさを持ちつつも自立に向けた促しをし、年長園児には時として厳しい指導をするといった年齢や発達に合わせた対応を心掛けた ＊他児との関係性を考える際には同時に一人一人の子ども自身の心身が充実していることが大切だと感じる。他児への関心と自分自身の理解をバランスよく両立できるよう援助していきたい	A	子供達の気持ちをまず先に聞き、子供達で考えさせることをしてくれる。 子供が先生に注意されたときもなぜ注意されたのか理解しているところから厳しさの中にもやさしさがあることかわかる。
1、幼稚園の教育目標 ③	・保育者は一人ひとりの子どもの個性をとらえることが出来ていたか ・園では子どもを伸ばす保育が出来ていたか	A	・一人一人の園児の「意欲」を大切にし、個々の「意欲」に合った保育、また「意欲」や「自信」に繋がるような援助を心掛けた ＊保育者が個々の園児の内面を深く理解できるよう学びを深めるとともに、教職員内で園児たちの情報を共有していきたい	A	周り比べてしまうことが多い中、子供達自身は他の子と比べているのか、それとも過去の自分と比べているのか気になる。 年長は特に人がどうかではなく自分はどうなのか考える力を身につけてほしい。

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
2、本年度の 重点目標 ①	・子どもの意欲、気持ちを大切に する（長期的な視野からも 子どもの育ちを捉える）保育 ができたか	A	・保育者主導の保育ではなく、子どもたちの気持ちを大切に考えながら、主体的に取り組むことができるように心掛けた ＊自分の考えを持ち、意見を表現できる子ばかりではないため、先ずは子どもが自分で考え表現できるように環境を整えていきたい ＊保育者は方向性を意識しつつも、子ども達自身が自由に考え、決め、表現していく場面や機会を大切にしていきたい	A	幼稚園は小学校の準備期間と考えたときに多少は保育者が主導でも良いと思う。年少・年中時に先生の話をしっかり聞くという姿勢ができることで年長になったときの活動の幅が広がっていると思う。
2、本年度の 重点目標 ②	・遊びに没頭し、遊び込める環境を整えることができたか	B	・7月下旬「わくわくウイーク」、10月末「秋祭り」では遊びや製作に熱心に取り組む姿が見られた ・夏を中心として園庭の植物を使って色水遊びを盛んに行った。毎日のように行うことにより、植物によって色が違うこと、道具の使い方の工夫によって色が変化することなどに気付き、「明日は〇〇でやろう」という声も聞かれ、次回を楽しみにしている様子があった ・全学年が集うホールでの集会等が中止となっているため、ホールを使用した遊びや製作の幅が広がった ＊日々のスケジュールの中や決まった行事、行うべき製作等がある中で、子どもの意欲、保育の連続性、遊びに没頭できる環境作りは大変難しいと感じる。ただし、保育者の専門性を高めることにより出来ることは増えると考えるので更に努力していきたい	A	体験不足が多いから危険予測ができない子が増えている。新しい取り組みがたくさん増えいろいろな経験をさせてくれた。秋祭りでは子供と一緒に保育参観で作ったものがホールに飾られていたり、他学年の作品もとてもよかった。

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
2、本年度の 重点目標 ③	・プロセスでの育ちを見極めることができたか	B	・出来る出来ないの結果だけに拘らず、「出来る」までに至ったプロセス、また「出来ない」でもどの様なアプローチをしていたかを把握する様に努めた ＊プロセスでの育ちを見極めるには保育者側の専門的知識が必要だと考える。また多角的な視点から一人一人の子どもを理解するためにも、教職員内で情報や価値観を共有し、一丸となって子ども達の教育にあたっていきたい	B	常に新しいことを考えてくれているので子供達の刺激になっている。 できたときの手に描いてくれる花丸やできた数の数字、チャレンジカードのシールは子供のたちの達成できた喜びにつながっていると思う
2、本年度の 重点目標 ④	・幼児教育の可視化に努めることができたか	B	・子ども達の園での様子が伝わりにくい分、保護者の方は結果や可視化できる部分からの育ちの実感となってしまう点はやむを得ないかとは感じる。しかし、子ども一人ひとりの育ちのプロセスは違いがあり、目に見えないプロセスをきちんと理解し伝える努力をしていた ＊「秋祭り」ではポートフォリオ風に園児たちの秋祭りに向けた取り組みの写真を各クラスに掲示した。初めてのことで手探りの状況だったものの画像を使った方法は幼児教育の可視化に有意義だったのではないかと考える。次回は更に工夫をして、より良いものにしていきたい	B	第一子の保護者にはつたわりにくいところもあった。幼稚園側の伝えたい点と保護者の知りたい点の相違がある。保護者は知りたいことをどこまで聞いていいのか。アプリやホームページをもっと活用してほしい。 後期はアプリに随時連絡がきたので幼稚園のコロナ状況や対策はわかりやすかった。

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
2、本年度の 重点目標 ⑤	・保護者の子育て支援の充実に努力したか	B	・令和３年度より月に１回ほど「こそだて広場」を開催し、卒在園児、地域のご家庭の参加があった ・道路沿いに掲示板を設置し、「こそだて広場」「園庭開放」などの情報を掲示した ・昨年度は９月からの受け入れ開始を６月からに変更して満３歳児の受け入れをし、保護者の子育て支援が促進された ＊保護者の方々のニーズを把握し、健全な子育て支援を充実させていきたい	A	満３歳児の受け入れは家庭的に助かる保護者も多いと思うし、他学年を見ることが子供も保護者も安心することも増えると思う。
2、本年度の 重点目標 ⑥	・地域の資源を活用し、地域社会との交流を深めることができたか	A	・公共施設では園外保育にて科学館、遠州灘海浜公園等を活用させていただいた ・年長組は雄踏町とうもろこし畑、滝沢町みかん畑と地元の農家の方にご協力いただき、体験ができた ・浜松市環境政策課による園内での環境教室（年少～年長）、リサイクル教室（年長）、緑化推進本部による間伐材の積み木教室（年長）を実施した ・秋祭りではNPO ガラ紡愛好会の方による綿繰り体験、環境教室の寺田先生による竹ぼっくり作り（年長）を行った ＊感染症予防に配慮しながらも、地域の方々のお知恵や力をお借りして活動の幅を更に広げていきたい ＊子ども達が地域に愛着を持てるよう、地域の自然等について視野を広げたり、地場産品にふれたりする機会を大切にしていきたい	A	子供達が地域の物に触れ知ることができるのはとても良い経験で自分の町を好きになることにもつながると思う

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
3、本年度または近年の新しい取り組み ① 「年長組とうもろこし狩り、どろんこ遊び （R3.6.29）」	・開放的な環境の下でのびのびと活動できたか	A	・初めての試みではあったが、スムーズに活動することができた。園外でのダイナミックな活動は年長組だからこそできる活動だと実感し、また安全で楽しい活動を子ども達自身が作り出すことができるような下地を年長組までに身に付けておくことの大切さを感じた。 ・普段とは違う環境下でとうもろこし狩り、泥んこ遊びを十分に楽しんでいた姿が見られた。 ＊往路は遠鉄バス、復路は園バスを利用することにより、交通費を抑えつつも子ども達の活動時間を十分に確保するように努めた。外部委託のバスは費用が高額、かつキャンセル料が発生する等の点から利用に躊躇してしまうが、今後も上手く活用して子ども達が様々な経験ができるよう配慮していきたい	A	幼稚園の泥遊びでは時間と場所に限度があるので、園外保育で時間も気にせず思いっきり遊べたので子供達も楽しそうだった。 とうもろこし狩りはアニメで見て子供が憧れていたがなかなか体験させてあげることができなかったのもとてもいい経験になった。
3、本年度または近年の新しい取り組み ② 「わくわくウィーク （R3.7.26～30）」	・子ども自身が主体的に活動を楽しめたか	A	・子ども達と一緒に考えたり製作をしたりすることを通じて、子ども達自身が主体的に関わることの楽しさを感じたように思う。夏の経験が秋祭りへと繋がり、自分のイメージを形にしたり、他児と共感したりという経験に結びついていった ＊子ども達のイメージが豊かになるような働きかけ、またイメージを具体的に表現できるような援助や支援の方法を考えていきたい。また、そうした活動を通じて保育者や他児と共感し合ったり、協力したりする活動場面を増やしていきたい。	A	夕涼み会がわくわくウィークに変わったということが保護者にはわかりずらかった。子供達が夏季保育中も楽しそうに登園していたのはよかった。

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
3、本年度または近年の新しい取り組み ③ 「秋祭り (R3.10.30)」	・当日までの準備を含めて、祭りを楽しめていたか ・親子で楽しむことが出来ていたか	A	・夏の「わくわくウイーク」での製作等を通じて、自分たちで作り出す行事の楽しさを感じつつある様子だった ・保護者の方からも楽しい行事だったとの評価を頂けた ＊今年初めての取り組んだ行事だったが、大きなトラブルなく、また天候にも恵まれ楽しい行事となった。今年度の内容を参考にしながら、来年度も引き続き楽しい催しとなるよう計画していきたい ＊地域の方々にもご協力頂き、綿繰り体験、竹ぼっくり作り（年長児）ができた。次年度も地域や自然のものを取り入れた活動ができるように工夫していきたい	A	秋祭りでは子供達が一生懸命、製作したのがよくわかるものだった。 製作中の話を子供が話してくれたのでそのプロセスを聞きながら親子で回るのはとても良かった。 自分で作ったもので昔ながらの遊びができたのはよかった。 せっかくなら野菜や果物がもう少し種類があったほうがよかった。
3、本年度または近年の新しい取り組み ④ 「年長組みかん狩り (R3.11.6)」	・年長組としての楽しい思い出の機会となったか ・地場産品にふれ、浜松という町に親しみを感じる機会となったか	A	・豊かな自然の中でのみかん収穫体験、自然の中で慣れ親しんだ保育者や友達と過ごした時間は楽しいものであったと思う ・園児たちが持参してきた図鑑に載っている「あけび」「カラスウリ」等の実物を実際に見ることができ、より自然への興味関心が高まったのではないか ＊雨天の場合の活動がかなり限定されてしまうため、天候によって活動の成果が左右されてしまうことは懸念材料であるので、雨天の場合でも楽しめるように準備をしていく必要がある	A	みかん狩りは生活の中では体験できないので自分でとった果物をその場で食べたりお土産で持って帰って家族と食べたり、とても嬉しそうにたくさんお土産話をしてくれた。

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
3、本年度または近年の新しい取り組み ⑤ 「年長組リサイクル教室（R 3.12.14）」	・子どもにとって興味深い体験となったか ・リサイクルの意識が高まるきっかけとなったか	A	・身近な牛乳パックから葉書ができることは興味深い体験となった。リサイクルの仕組みは難しい内容ではあったものの、講師の先生の説明が分かりやすく、リサイクルの大切さを感じることはできたのではないだろうか ＊今回作成した葉書は活用することなく園児が持ち帰りをしてだけになってしまったが、次回のリサイクル教室で作成した葉書は、その有効な活用法を考えたい	A	出来上がった葉書をととても誇らしそうにみせてくれた。 家に持ち帰っても葉書として使うことはできなかったのも、次回は年賀状や敬老の日などに使用してほしい。
3、本年度または近年の新しい取り組み ⑥ 「年長組積み木教室（R 3.12.20）」	・子どもにとって森林の大切さを感じ、浜松市北部地域への関心が高まるきっかけとなったか	A	・園児たちにとって身近な玩具である積み木が間伐材から作られ、間伐材を使用することは森を健全に保つことにつながるという仕組みまでの理解は難しかったと思うが、園児たちは真剣に話を聞くことができていた ＊おそらく単年度の事業であるため、次年度に同内容の活動はできないと思われる。しかし、森林を身近に感じる経験は有意義だと考えるため、次年度に森林に親しむ活動が取り組めないか模索していきたい	A	ホールでみんなで協力して街を作った話をしてくれた。 園で普段からカプラに触れているので普段触れてるおもちゃの中には木が使われていることも勉強になったと思う。